

**オムロン株式会社 2015年度3Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)**

(2016年1月28日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 設備投資の見通しを480億円から400億円の減額した理由は？

A: 事業環境の悪化により全般的に需要が減速していることから、本社直轄事業などを中心に設備投資の見通しを修正した。

Q: 配当性向30%に拘りはあるのか？

A: 配当性向を30%に引き上げることは投資家とのコミットメントである。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: IABを取り巻く景況感はいつ頃から回復に向かうと見ているのか？

A: 中国の減速が欧州やアジアに波及しており、景況感の回復時期は読みにくい。一方で、中長期的視点で言えば省人化、品質向上に関する投資需要は高まっている。

Q: 3Qの営業利益率が2Qと比較し、低下している理由は？

A: 売上高減少による付加価値減に加え、今期実施した2件のM&Aに関するPMI費用の影響がある。

Q: 中国の代理店在庫に問題はないか？

A: 中国の在庫は慎重にコントロールしており、適正水準で推移している。今後も注視していく。

Q: 日本における4Qの事業環境は何を理由に回復すると見ているのか？

A: 日本の事業環境は、自動車、デジタル、日用品などの投資需要の高まりを想定している。

Q: 米州に減速感はないか？

A: オイル&ガス事業は期初計画から比較しても落ち込んでおり、その他の原油関連投資にも減速感が出ている。一方で、自動車や日用品などは堅調に推移している。

◆ 本社直轄事業 (その他事業) 関連

Q: 現状もバックライト事業に将来の成長期待を持っているのか？

A: 以前はFY16に売上高1,000億円という目標を掲げていたが、今は事業環境の悪化を受けて売上計画の下方修正が必要と考えている。足元では人員の再配置など事業構造の再構築を進めており、収益性の改善に取り組んでいる。

Q: 本社直轄事業における通期売上高の下方修正額の内、バックライト事業、環境事業の割合は？

A: バックライト事業の落ち込みが下方修正額の大半を占める。環境事業は2Q時点での見通しから、ほぼインラインで推移している。
